

1 研修の概要

今回、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施した「教師海外研修」により9月13日（土）から9月21日（日）の9日間ネパールに行く機会を得ました。

JICAでは、国際理解教育や開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、そこに暮らす人々の生活や国際協力の現状、日本との相互依存関係等に関する理解を深め、教育活動の一層の充実を図ることを目的に「教師海外研修」が昭和40年度の高教員派遣から始まり、毎年実施されてきました。平成23年から従来の教師海外研修プログラム教員コースに加えて文部科学省、教育委員会の教育行政担当者コースが実施され、今回はこのコースでの研修に参加しました。

ネパールでは、JICAやNGOが行う国際協力の現場の視察と関係者との意見交換、現地の学校や教育局の訪問と教育関係者との意見交換、文化、生活、社会情勢の理解を得るためのホームステイなどを行ってきました。



バネシ王宮正殿

2 青年海外協力隊の取組

日本の小学校教諭が青年海外協力隊員として、児童を中心とした指導法の普及を目指して奮闘している様子を視察しました。また、青年海外協力隊員の関わりによって改善されたネパールの先生方の授業も見学しました。授業では、基礎的・基本的な知識を身に付けさせた後、これらを活用して表現力を養う、児童を中心とした指導を意識した授業が行われていることが確認できました。

限られた時間と財源の中、日本と違う環境で、若い日本人の教員が「子供たちの教育のために、将来のネパールの教育のために」活躍する姿は頼もしく、素晴らしいものでした。



青年海外協力隊員と児童

3 シニア海外ボランティアの取組

日本のシニア海外ボランティアが現地教員に対して体育の実地指導を行っている様子を視察しました。ネパールでは体育のカリキュラムは存在するものの、指導者である教員が体育の指導法や授業展開について十分な指導を受けていません。子供たちが楽しく元気に、体ほぐし運動や大縄跳びをする姿がとても印象的でした。



小学校体育の様子

4 終わりに

海外で活躍する人々から、自ら課題を見つけ解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力が求められていることを学びました。

また今回の研修は「持続可能な社会の構築に向けた学校教育の在り方」について学ぶ機会になりました。現行の学習指導要領の特徴の一つにESD（Education for Sustainable Development）の視点が新たに盛り込まれています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があり、これらの現代社会の課題をそれぞれの授業を通して自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習が望まれていると思います。